

平成28年産麦の初検査

秋まき小麦の生育は、秋期、播種期は平年より3日程度早まりましたが、その後、やや低温で推移したことから、越冬前の生育は、空知・石狩で平年を上回ったものの全般に1～2日の遅れとなりました。

春期は、全道的に融雪が早く、また雪腐病の発生も少なかったことから、越冬状況は良好に推移し、5月上～下旬にかけて、高温少雨で経過したことから、生育が進み幼穂形成期、止葉期は平年より大幅に早まりました。

しかし、6月に入り、長雨、低温、日照不足の影響を受け、全道的に生育が停滞し、出穂期は道央・道南では5日以上早まったものの、道北・道東では、3日程度早まるにとどまりました。

7月の天候は、日照時間はほぼ平年並でしたが、降水量が多かったこともあり最終的に収穫作業は平年より遅れて始まりました。

品質・収量については、一部6月の長雨や日照不足の影響が懸念される状況にもありますが、各JAとも上位等級を目指した調製作業を進めております。

小麦の初検査は、昨年と同時期の8月上旬より石狩、空知、上川地区でほぼ同時にスタートし、他の地区でも順次開始される予定です。



JA あさひかわ 村上検査員による初検査（きたほなみ）